

三重県伊勢市方言の否定の表現

佐藤 虎男

I. はじめに

1. 調査対象地： 伊勢市は、旧伊勢国南部（南勢）に位置し、さらにその南の志摩国鳥羽市と境を接する。古くから伊勢皇大神宮（お伊勢さん）で名高い観光都市である。本報告で記述しようとする地点は、その内宮の入口宇治橋から北に伸びる古い町筋（赤福本店のある通り）の一角（宇治浦田）である。市の中心部を離れた周辺部集落のことは、ここでの対象とはしない。

因みに、内宮から南に車で約20分入った周辺集落の一つ高麗広（こうらいひろ）の初老男性によれば、「無い」を「ネー」と言うのは常のことであるし、またその丁寧形「アラシマセン」を、自分が言わないのはもちろん、聞いたこともないという。中心部では「無い」は通常「ナイ」であり、その丁寧形は「アラシマセン」を言うのである。

2. 調査年月日： 1995年3月8日 午後1時50分～4時20分
3. 話者： 藤井淑子氏 昭和10年1月4日生まれ（60歳）
4. 調査者・調査場所： 佐藤虎男、話者宅
5. 調査方法： 統一調査票による質問調査
6. その他： (1)アクセントは高音部を傍線で示す。文末の尻上がり調は \nearrow で示す。
(2)話者の説明は（ ）で括り、調査者の注記は〈 〉で括る。（多）は「その使用が多い」、（少）は「その使用が少ない」の意。
(3)〈提示〉とあるのは、調査者の方からその文形を提示し、刺激して得た回答であることを示す。ただし、表記した形はあくまでも話者の実現した形である。
(4)〈 〉の注記、および【補記】には、上記の話者以外の人を対象とした調査結果にもとづいて記述するところがある。

II. 調査結果

1. 行かない。 ①アメガ フリソ $\bar{}$ ヤデ キョ $\bar{}$ ワ ドッコモ イカントク $\bar{}$ ワ。 \nearrow / ② $\bar{}$ イカヘン $\bar{}$ ワ。〈①の $\bar{}$ トク（ $\bar{}$ ておく）には意図の意味が強く現れる。なおこういう場合にイカンということは少ない。〉
2. 降らないよ。 ①フラヘン $\bar{}$ ニ。〈フランも言わないことはないが、フラヘンがごく普通の言い方。特に頻度の高い文末詞ニが後続するときはこの形になる。〉
/ ②フラント $\bar{}$ オモウ $\bar{}$ ワ。
3. 行きません。 ①イカントキマス $\bar{}$ ワ。 \nearrow / ②イカ $\bar{}$ シマセン $\bar{}$ ワ。 \nearrow
4. 行きはしない。 ①イカントコト オモテマス。 (丁寧) / ② $\bar{}$ イカヘン $\bar{}$ イカヘン。
/ ③イキワ $\bar{}$ セーヘン $\bar{}$ 。〈提示。ただし、こういう言い方はあまりしない。〉

5. いらっしゃらない。①イカレヘン。 (やや新) / ②イキナサラヘン (多。おもに女) / ③イカハラヘン (大人のことば。男女ともに言うが、男により多いか。) (行くの意味でのオイデヤヘンは言わない。オイデル動詞は「居る」「来る」の敬語であって、「行く」の敬語にはならない。この点ゴザラヘンも同じ。) 〈提示〉
6. 行かなかった。①イカヘンダ。 (多) / ②イカソッカッタ (若者ことば。新) / ③イカシダ。 〈提示〉 / ④イカシダ。 (これは市の周辺部の言い方。なお度会郡南勢町の方ではイカザッタも言う。) 〈提示〉
7. 行きはしなかった。①イキワセヘンダ。 (少) / ②イカヘンダ。 〈提示〉 / (イキワセソッカッタは若い人が言うかもしれないが、イキワセヘンカッタは回りくどくて言わないと思う。)
8. 行くまい。①イカソトコ。 (多) / ②イカソトコマイ。 (聞くことがあるが、これは郡部か上方からのことばのような気がする。) 〈提示〉 / ③イカヘン。
9. 出まい。①デヤソトコ。 (多) / ②デソトコ。 〈提示〉 / ③デヤヘン。 (デマイは言わない。)
10. すまい。①セソトコ。 (多) / ②シヤソトコ。 (少) 〈提示〉 / ③シヤヘン。 〈スマイは言わない。〉
11. 降らないだろう。①アメワフランヤロナ。 / ②フリワセンヤロナ。 / ③フラヘンヤロ。 (多) / ④フラソトオモウケド。 〈説明的。独り言には言わない。〉 / ⑤フランソトチガウ。 (強いていえば新しい言い方とは思いますが、一般によく言う。) 〈提示。これも④と同じく説明的。〉
12. 降るにちがいない。①キソトアシターアメヤニ。 / ②キソトアシターアメガフルニ。 / ③フルソトチガウ。 (こう言うと、断定度がちょっとあやふやになる。) 〈提示〉
13. 来ない。①キヤヘン。 (多) / ②ミエヘン。 (ミエルはよく言う敬語。) / ③オイデーヘン。 / ④ケーヘン。 〈提示。キーヘンは主に若い人が言う。〉 / ⑤コーヘン。 (少。若い人のことばかもしれぬ。) 〈提示〉 / ⑥コソ。 (主に男) 〈提示〉
14. 来はしない。①ケーヘン。 (主に女) / ②キワセヘン。 〈提示〉
15. 来なかった。①ケーヘンダ。 / ②オイデーヘンダ。 / ③ミエヘンダ。 / ④ゴザラヘンダ。 〈提示〉 / ⑤コシダ。 (聞くが、自分は言わない。) 〈提示〉 / ⑥ケーヘンカッタ。 (聞くが、自分は言わない。) 〈提示〉
 〈以上のほかに、ミエソダという言い方がある。〉
16. 見ない。①ダレモミヤソ。 / ②ミヤヘン。 〈提示〉 / ③ミヘン。 〈提示〉
17. 居ない。①ダレモオラヘン。 / ②オラソ。 / ③オイデーヘン。 (敬語) 〈提示〉 / ④ゴザラヘン。 (敬語。③の方がやや上の人への待遇。④は少し親しい人で、目上の人への待遇。) 〈提示〉 〈なお、イデーヘンここでは言わない。〉

18. 行かずに ① イカント (イカイデは知ってはいるが、使わない。)
19. 行かなくてもよい。 ① イカンドエモ エ^ニヤ ナイ ワ。 / ② イカイデモ (古風。稀。) (提示) / ③ イカンカッテモ (あまり言わない。) (提示)
20. 行かなければよかった。 ① イカングラ ヨ^クカッタ。
21. どうしても行かねばならない。 ① ナツシテモ イ^カナ イ^カン^ノヤ ワ。 / ② イカント イ^カン^ノワ。 (状況からしてどうしてもねばならぬという説明の姿勢である。だから、独り言には言わない。) / ③ イカン ナラン。 (自分の意志を強く打ち出す場合。だから、独り言としても言う。提示)
22. 行かねばならない。 ① イカン ナラン。(多) / ② イカナ イ^カン。 (提示)
23. ～ズ(ヤ) ① イカング。 / ② イカズジマイヤッタ。(やや古風)
24. 行きもせず～来もしない。 ① イキモ セ^ンシ キ^モ セ^ン ワ。(多) / ② イキモ セ^ズ キ^モ セ^ズ。(こう言うこともある。) (提示)
25. 行くか行かないかわからない。 ① イタカ イ^カツ^カ ワカラン ワ。

【補記1】「行かなかった」に関連して。「釣れなかった」ならば、ツレヤング・ツレナング・ツレング・ツレヤヘング・ツレヘング・ツレノカッタ・ツレヤノカッタ・ツレヤヘノカッタなどの否定の諸形態があるほか、なおボズヤッタとかコロツケヤなどという別角度からの発想による表現がある。こういう事実にも注意したい。

【補記2】「行くまい」に関連して。自分の意志を言う場合は、上記のように「イカントコ。」が最も多いが、相手を勧誘する場合にもこの形を用いる。ただしその場合は、文末にヤとかニとかいう文末詞を着けるのが普通である。なお、同じ「行くまい」の意の「イカントコ マイカ」も、ごく稀ながらあるようである。「まい」が、その打ち消しの機能を直前の「～ン」に割譲し、自身は意志(ないし勧誘)の機能にのみ生きた結果である。

【補記3】「行かねばならない」に関連して。動詞を「出る」にすると、下記のような諸形がある。

デヤンナラン・デンナラン・デヤントイカン・デヤナイカン・デヤナアカン・デナイカン・デントイカン・デントアカンなど。

【補記4】複数の助辞接続の場合、例えば「寝させられない」をどう言うか。

ネサセラレヘン・ネサセラレン・ネサセラレヤン / ネヤサラーヘン・ネヤサレヘン / ネカセララーヘン・ネカセラレヘン / ネヤセヘン / ヨー ネヤサンなどがある。

Ⅱ. 存在・状態・判断の否定表現

26. これだけしか無い。 ① コンダケシカ ナイ ワ。(現在はこれが普通。特に若い人は。) / ② コンダケコソ ナイ ワ。(昔からこれもよく言う。) (提示)
27. 無いねえ。 ① コトシミタイニ アツツイ トシワ マー ナイ チー。(「無い」

をネーと言うのは市中心部ではあまり聞かない。言う人もあるにはあるが、大抵は周辺部の人のようである。因みに隣接する志摩地方では、一般にこのネーがよく行われる。)

28. ありはしない。 ①ア^ラヘン ナー。 / ②ナ^カッタ ナー。
29. 無かったねえ。 ①ナ^カッタ ナー。
30. ありはしなかった。 ①アリ^ワ センダ。(言って言えなくはないが、めったに言わない言い方。) / ②ア^ラヘンダ。(多。これが普通。)
31. 無いだろう。 ①モ^ニ ナイヤロ ナー。 / ②ナイ^{ント} チガウ カ。(ナ^カローという言い方は、常のことではない。) (提示)
32. 無ければいいのに ①ナ^ケラ エーノニ。(多。日常的。) / ②ナ^カッタラ エーノニ。(提示)
33. 暑くない。 ①ア^ツ ナイ ナー。(多。普通ア^ツのように長呼しない。)
34. 暑くはない。 ①ア^ツイコト ナイ ナー。 / ②ア^ツーワ ナイ。(提示)
35. 暑くなかった。 ①ア^ツ ナ^カッタ ナー。 / ②ア^ツイコト ナ^カッタ ナー。
36. 暑くはなかった。 ①ア^ツイコト ナ^カッタ。
37. 暑くないだろう。 ①ア^ツ ナイヤロ ナー。 / ②ア^ツ ナイ^{ント} チガウ。(提示)
38. 涼しくない。 ①ス^ズシ ナイ ナー。(スズシューナイは言わないようである。)
39. にぎやかでない。 ①アマ^リ ニギ^ヨートラヘン。 / ②ニギ^ヤカヤ ナイ。(提示) / ③ニギ^ヤカト チガウ。(提示) (ニギ^ヤカニ ナイは言わない。)
40. にぎやかではない。 ①ニギ^ヤカト^ワ チガウ。 / ②ニギ^ヤカヤ^ラヘン。(提示)
41. にぎやかでなかった。 ①ニギ^ヨートラヘンダ。 / ②ニギ^ヤカヤ ナ^カッタ。(提示)
42. にぎやかではなかった。 ①ニギ^ヨートラヘンダ。 / ②ニギ^ヤカヤ ナ^カッタ。 / ③ニギ^ヤカナ ト^コヤ ナ^カッタ。
43. にぎやかではなからう。 ①モ^ニ マエ^ノヨ^ーニ ニギ^ヨートラヘンヤ^ロ。 / ②ニギ^ヨートラン^ト チガウ。 / ③ニギ^ヤカヤ ナイヤ^ロ。(提示)
44. 花ではない。 ①ハ^ナヤ ナイ。 / ②ハ^ナヤ ア^ラヘン。(提示) / ③ハ^ナト チガウ。(提示)

【補記5】「～しか無い」相当の「～コソ無い」については、拙稿「高次共時方言学」実践の試み—三重県方言の「～しか(ない)」表現法を中心に—(明治書院「日本語学」平成4年5月臨時増刊号所収)のご参照を請う。

【補記6】「暑くない」に関連して。「暑い」などの「-ui」語尾形容詞に対して、「赤い」などの「-ai」語尾形容詞の否定の言い方には諸形がある。「タ^カナイ」「タ^カーナイ」「タ^コナイ」「タ^コーナイ」など。なおこれ以外に、「～コトナイ」「～コトア

ラヘン」があることは、どういう語尾の形容詞にも共通である。

【補記7】「～ではないだろう」の場合、「だろう」に相当する推量の諸形態以外に、たとえば「降ラント モチゾーヤ。」という表現がある。「ント」は「～ないで」に相当し、「降らないで（降らずに）保ちそうだ」とすることで、「～ではないだろう」に相当する表現を可能にする。肯定形の「降るだろう」を「降りそうだ」と表現することがあるが、その否定の言い方は、「フランソーヤ」ではなく（この言い方は伝聞の意味を表す）、「フ^ラント モチゾーヤ」と言う。その表現発想が、興味深い。

Ⅲ. 特定の慣用句による否定（不可・禁止）表現

45. (そんなことでは)いくらやってもだめだ。(不可) ①ア^カヘン。/②イ^カンニ。(①より多。)
46. あいつはだめなやつだ。(不可) ①ア^カン ナー。ア^ノ シトワ。/②イ^カン ナー。(だめな奴というよりは、悪いことをする奴。してはならないことをする時に相應しい。この点、①「アカン」にはその人を見捨ててしまったようなニュアンスがある。)〈大阪弁のアカントレに当たるのは、ボソクラ。〉
47. つまらないことを言うな。(不可) ①ア^ホナ コト ユーナ。(多)/②ツ^マラ^ン コト ユーナ。(提示)/③(ヤク^タイモ^ナイ コト ユーナ。は聞くことはあるが、自分は使わない。)
48. 行ってはいけない。(禁止) ①イ^ツタ^ラ イ^カン。(イ^カンは、そうしてはならないことを「するな」と禁止する時に相應しい。)
49. そんな所へは行カレン。(禁止) ①ソ^ンナ トコエ イ^カレン ナ。(イ^ツタ^ライ^カン ナ。とも言うが、こうも言う。おもに60歳以上の人が、子供に言う場合によく言う。イ^カレンナと、必ず「ナ」が付き、イ^カレンだけでは言わない。「行ってはいけない」という禁止の意味である。)〈この「ナ」は、禁止の助詞などではなく、「ね」に相当する感声的文末詞であり、イ^カレンの「レ」は可能助動詞、「ン」は打ち消しの助動詞と見るべきものであろう。「行くことができないよ」と言うことで制止の表現になるところは、たとえば岡山県などでのそれと同類のものと見てよいのであろう。)
50. そんな所へは行くな。(禁止) ①イ^ツタ^ラ イ^カン。/②イ^クナ ヨ。(おもに男が言う。)〈提示〉〈大阪弁での禁止表現「イ^キナイナ。」などは言わない。ただし、この形を「行きなさい」の意味では用いる。そして、その時のイントネーションは「イ^キナイナ。」である。)
51. いたずらをするな。(禁止) ①ワ^ヤク シ^ナハンナ。(シ^ナハンナは優しい言い方。おもに女)/②ワ^ヤク ス^ンナ。(ス^ンナは「するな」の音訛。おもに男)〈「スナ。」は言わない。〉

52. そんな所へ行くもんじゃない。 ①イクモンヤ ナイ ワザ。／②イカンヤ。(この言い方は私らも確かにするが、北の方から来たもののような気がする。というのは、私の母方の祖母は鈴鹿市の出で、祖母も母もこの「イカンヤ。」をよく言っていたので、自然に私も言うのだが、伊勢市の地ことばと断言はできない。) (提示。共通語に対応させれば、「行かないんだよ」ということになる。この「ヤ」は断定助動詞「ヤ」に由来するものと見られる。相手の判断断定を先取りすることで、相手の行動を規制制止しようとするものである。)／③イカンホーガ エニニ。 (提示) (①に比べると、やや柔らかい感じ。)／④イカントキナ。(提示。以上4つの中ではこれが一番強い禁止表現。)

53. 暑くてたまらない。 ①アツテ ナットモ ナラン。(多)／②アツテ ドモ ナラン。／③アツテ カナワン。(提示)／④アツテ アツテ シンボ デキヤン。(提示)

54. 雨がやむのを待っていてもしかたがない。 ①マツッテモ ショーナイ。／②マツッテモ シカタガナイ。

55. 楽ではない。 ①カナワン ナー。／②エライ ナー。(多)／③シンドイ(新)／④ラクヤ ナイ ナー。(提示)

56. 歩きたくない。 ①アルキタ ナイ ナー。／②アルキトー ナイ。(提示)(古老のことば。)／③アルキトモ ナイ。(提示。高年層)／(アルキトミナイは言わない。)

57. 心配しなくても大丈夫だ。 ①シンバイセンデモ ナットモ ナイ。／②ダイジョーブヤ。(提示)／(ダンナイは使うが、少し意味が違う。)

【補記8】上記「～するな。」に関連して。その諸形のほかに、「～ントイタラワ。」の言い方がある。「～しないでおいたら(その場合)は？」という言い回し方で婉曲に制止するもの。相手の自主性を尊重した婉曲の禁止表現である。したがって文末は尻上がり調子になることが多い。

【補記9】「おかまいもせずすみませんでした。」の言い方。

前半の諸形——オカマイモシマセンデ・オカマイモセント・カマワント／アイソナシデ・アイソアテなど。これらは主に中年層以上のことば。

後半の諸形——スミマセンデシタ・スンマセンデシタ・スイマセンデシタ・スンマセンダ・スミマセン・スンマセン・スイマセン・スマンチ・ゴメンチなど。

IV. 否定の応答表現

58. いや。 ①イニヤ。フラヘンダ。／②イニエ。フラシマセンダ。ワ。(丁寧)

59. いや。(強い否定) ①イ——ヤ。フラヘンダ。(長呼形になる。)／②イヤイヤー。(提示)／③イエイエー。(目上の人に。) (提示)

60. いいえ。 ① イエイエー。 / ② イーエー。 (提示)
61. いや。 (否定問いかけに対する応答)
 (1) 降った場合の応答—① イヤイヤ。 フッタ ヨ。 / ② イヤイヤ。 フリマシタ ニー。
 (2) 降らなかった場合の応答—① ウンウン。 フラヘンダ。 / ② ハイハイ。 フラシマセン ダ ワ。(目上に対して)
62. どういたしまして。 ① イエーイエー。 メッソモ ゴザイマセン ワ。(若い人は言わない。) (おもに女。)

V. 不可能の表現

63. 私はできない。 ① ヨー シマセン。 / ② ヨー セン ワ。 / ③ デキン。 (提示) / ④ デキヤン。 (提示)
64. 読むことができない。 (状況) ① クロテ シンブンガ ヨメーヘン ワ。 / ② ミ エーヘン ワ。(提示) / ③ ヨマレヤヘン。(提示) (こうも言うが、①の方が自然だ。)
65. 読むことができない。 (能力) ① ヨー ヨマン ワ。(この場合にヨメーヘンは言わない。) (能力不可能と状況不可能との区別が一応認められる。)
66. 街へ出られない。 (心理的状況) ① ヨー デヤン ワ。 / ② デラレーヘン。(提示) (こうも言うが、①の方が自然。)
67. この茸は食べることができない。 ① タバラレヤン。 / ② タベレヤン。(提示)
68. 忙しくて昼飯も食べることができない。 ① タバラレヤン。 / ② ヨー タベンダ。 / ③ タバラレーヘン ワ。 / ④ タバラレヘン。 / (②のような能力不可能の言い方は自然に過去形をとるようである。)

VI. 反語・反発の強調表現

69. そんなこと、おれが知るものか。 ① ソナナ コト シラン ワ。 / ② シラン シラン。 / ③ シル モンカ。(提示。反発の気持ちの強い言い方。) / ④ シル カー。(提示。男ことば。)
70. 誰が行くものか。 ① ダレガ イク カ。 / ② ダレガ イク モンカ。(提示)
71. そんな所へなんで行くか。(行くものか。) ① ナンデ イカン ナランノヤ。
 ② イッタル モンカ。(提示) (男ことば)
72. なんで恥ずかしいものか。 ① ハズカシ コト アラヘン ニ。 / ② ナンデ ハズ カシ コト アロ カサ。(提示。①よりも反語的な表現。)
73. 行かないでおるものか。(行くとも!) ① イッタル ワサ。 / ② イク ワサ。 / ③ イカン コト アロ カサ。(提示) (しかし、どこか意味が違うように思う。イク ワサ。の方が意志が強い。) / (「イカイデカ。」は言わない。)

74. それがお前にやれるか。 ①ヤレル モンカ。〈提示〉 ②デキヨ カサ。
75. そんなにいやならシテイラン。 ①シテイラン。〈提示〉 / ②シテホシナイ。〈提示〉 / ③シテモラワンデモエー。〈提示〉 / 〈シテモーエーは言わない。〉
- 【補記10】反語表現の「～ことあるものか」に相当する「～ことアロカサ。」は、当方言らしい形であるが、これ以外の表現の諸形を挙げれば、～コトアルハズナイ・～ワケナイヤン・～ワケナイガン・～ナシカトチガウなどがある。

Ⅶ. 特定の副詞の関わる否定表現 (付. 否定形式の見られる特定副詞)

76. 少しもはかどらない。 (少しも～ない) ①スコシモ ハカガイカン。 / ②チョットモ ハカガイカン。
77. 仕事がぜんぜんできていない。 (ぜんぜん～ない) ①チョットモ デキトラヘンガン。〈ガンは頻度の高い文末詞。「～じゃないの。」にはほぼ相当する。〉
78. 雨がいっこうに降らない。 ①チョットモ フラン ナー。 / ②イッコーニ フラン ナー。〈提示〉
79. 雨があまり降らない。 ①ホニ フラン ナー。 (高年層) / ②アンマリ フラン ナー。 (多)
80. (予想外に) たくさんとれた。 ①テンポニ トレタ ナー。 / ②ヨーケ トレタ ナー。 (ヨーケは多量の意味だけ。①のテンポニは予想外に多量の意味。)

Ⅷ. その他否定形式の関わる諸表現

81. わざわざ行かなくてもいいではないか。 ①ワザワザ イカンデモ エヤ ナイカ。 / ②エーヤンカン。 (多) 〈文末詞「カン」はよく行われる。〉
82. わざわざ行かなくてもいいのではないか。 ①エーント チガウ カン。 (多)
83. わざわざ行かなくてもいいかもしれない。 ①エーカ ワカラン。 (多)
84. いっしょに行かないか。 ①イカヘン カン。 / ②イカン カン。 / ③イカン。 〈提示〉 / ④イカヘン。 〈提示〉 / ⑤イコ マイカ。 (言うけれども、この土地の本来の言い方ではないかもしれない。) 〈提示〉 (ごく稀)
85. これを持ってくれないか。 ①クレヘン カ。 / ②クレン カ。 / ③クレン。 〈提示〉 / ④クレン カン。 / ⑤モッテ クレル。 〈提示〉
86. これを持ってくれませんか。 ①モッテ モラエヤヘンヤロ カ。 / ②モッテ モラエン。 / ③モッテ モラエヘン。 / ④モッテ オクレル。 〈提示〉 (古風)
87. これを持って下さいませんか。 ①モッテ モラエマセンヤロ カ。 / ②モットクチハラシ カ。 〈提示〉 (昔の人がよく言った。自分はめったに言わない。)
88. 早く行かないと。 (～行けば) (勸奨) ①ハヨー イカン カン。 / ②ハヨ イカント。 〈「早く行かないと (だめだよ)」で勸奨の表現になる。〉 / ③ハヨ

イカナ。(提示。これも「早く行かねば(いけないよ)」で、同類。)

【補記11】「嘘を言うな」に相当する表現は、次のように整理される。

| | | | | | |
|----|------------|-----|---------|-----|-----|
| | 柔らか ←————→ | きつい | | 品位 | 使用者 |
| ウソ | ユワントイテ。 | ウソ | ツカントイテ。 | 柔らか | おもに |
| ウソ | ユワンデ | | | ↑ | 女性 |
| ウソ | ユワントキ。 | | | | |
| ウソ | ユータラ | ウソ | ツイタラ | | おもに |
| ウソ | ユーナ。 | ウソ | ツクナ。 | | 男性 |
| ウソ | イエ。 | ウソ | ツゲ。 | ↓ | |
| | | | | きつい | |

III. 総括

〔その一〕 通覧して考えること。

- (1) 打ち消し要素は打ち消し内容の後に出る。日本語構文の特徴の反映である。なお、今回の調査では、「不」「非」「無」のような接頭語は一切取り上げていない。
- (2) その打ち消し要素としては、助動詞「ん」とそれが関係する「へん」「やん」、ならびに形容詞「ない」が中心である。他には、助動詞「ず」、形容詞「なし」、打ち消し推量(意志)の「まい」、打ち消して接続する「で」などがある。さらに、「あるものか」のようないわゆる反語形式の存在や、「～と違う」で否定的な判断を示したり推量したりすることが考案されていることも、看過できない。これらの諸形態の総体は、当方言が関西方言圏にいっそう根深く属することを物語っているであろう。

〔その二〕 「～へん」ならびに特徴形「～ヤン」について。

三重県方言には、「書く」のような五段活用動詞の打ち消し表現に、カカンのように打ち消しの助動詞を動詞の未然形に下接させる言い方と、「書きはセン」由来のカカヘンのような言い方とがある。(この点、三重県方言にかぎらないことであるが。)このカカヘンの場合のカカは、したがって外形は未然形と同じであるが、じつはカキという連用形に係助詞「は」が融合した結果であって、「みかけ」上の未然形とでもいうべきものである。その証拠に、両者を丁寧表現にした場合、カカンの方はカキマセンとなるが、他方のカカヘンはカカシマセンとなる。すなわち、前者は「ます」に接続するために活用して連用形カキになるのに対し、後者は「書きは」の部分の構造は変わらないから、活用せずにカカのみで「カカしません」である。

このように、五段活用動詞には基本的に「書かん」「書かへん」の2形があるが、五段以外の動詞の場合は、たとえば「見る」でいうと、「見ん」「見やへん」の2形以外に、なお「見ヤン」というのがあることは、上巻の伊勢市方言の記述の中にも随所に認められるところである。この「～ヤン」に当方言の特色がよく反映している。

この「～ヤン」は、「見やへん」の「へ」が落ちて成立したとする見方もあるようであるが、筆者は藤原与一先生のお考えどおり、「見らん」のようなものに由来すると考えて

いる。その根拠はいくつかある。まず第一に、可能・受身の表現として、「見られる」をミヤレル、「来られる」をキヤレルなどという言い方がわずかながらあり、また使役にも「見させる」をミヤスということがある。さらに、「早く見ればよい」の「見れば」をミヤというのも、「見れば」がミリヤを経てミヤになったのであろうから、ラーヤの音転の傍証の一つになるはずである。その二。この見方は、結果的に非五段活用の五段活用化を前提として想定することになるが、かといって、すべての活用形が五段化しているわけではない。まず、命令形が五段化していない。「見る」の命令形はミロでなくミヨである。しかし、連用形命令法（やさしい命令）にミリーとかミリンとかいうのがあって、現在の当伊勢市には聞けないものの、県下の鈴鹿市白子方言には、今も高年層に行われているのに鑑みて、やはり五段化傾向はあるとしたい。「方言文法全国地図」によっても、五段化傾向と「ヤン」の存立とには、一定の関連性があるようにも見えるのである。

そうだとすると、ミヤンのミヤは動詞で、ンだけが助動詞であるから、ヤンという打ち消し助動詞を立てるわけにはいかないことになるが、すでにラーヤに変化してしまった以上、ラの動詞語尾性は薄れ、そのぶんヤンの一体性が強まることになるため、ヤンを助動詞とするのも無理からぬ処置といえる。結果として、五段活用にはンが、それ以外の動詞にはンもしくはヤンが付くということになり、ちょうど「れる」と「られる」、「せる」と「させる」のペアに類似する扱いになる。

〔その三〕 否定辞を「て」で受ける言い方にも注意すべきものがある。

たとえば、共通語の「通じなくて」に相当する言い方は、その言い切りの「通じない」では現れてこないいろいろな言い方が、特に若年層によく認められる。

ツージンデ・ツージヘンデ・ツージヤンデ・ツージント・ツージヤントなどのほか、若年層には特にツージンクテ・ツージンクutte・ツージンカutte・ツージヘンカutteなどの形が盛んになりつつある。

このツージンクテ・ツージンクutte事象は、「通じなくて」という共通語から直接転じたものではなく（「通じなく」の「な」が「ん」に変化したものではなく）、おそらくツージンという西日本的な打ち消しの言い方を基盤として、これに、クutteないしくテが単純に接合したものと推察する。形容詞が接続助詞テを下接するとき、共通語では音便形をとらない（非音便形である）ため、その連用形語尾クと接続助詞のテとのつながりが強く意識され、ためにこれがひとまとまりの要素として折出されるようになる。その、本来一語でないクutteないしくテが、ツージンという地ことばを土台に、文法的には破格のやりかたで接合したと考えられるのである。じつはそうすることで、自己の方言に立脚しながら、アイデンティティーを失うことなく共通語的な要素をも簡単に加味しえたというわけであろう。ここに、若年層に受ける理由の一つがあったと考えたい。

この言い方は、じつは愛知岐阜県下などの若年層にも盛んな新しい言い方であり、なお広まりの勢いにあると観察される。

（さとうとらお 皇學館大學）